

- 第三十五條ニ違ヒタル時
- 第四十條ニ違ヒタル時
- 第四十一條ニ違ヒタル時
- 第四十二條ニ違ヒタル時
- 第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第四十六條ニ違ヒタル時
- 第五十二條ニ違ヒタル時
- 第五十三條ニ違ヒタル時
- 第五十四條ニ違ヒタル時
- 第五十五條ニ違ヒタル時
- 第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時
- 第六十一條ニ違ヒタル時
- 第六十三條ニ違ヒタル時
- 第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス
- 第四十三條ニ違ヒタル時
- 第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時
- 第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

- 第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時
- 第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス
- 第二條ニ違ヒタル時
- 第七條ニ違ヒタル時
- 第十條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第二十八條ニ違ヒタル時
- 第二十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時
- 第三十三條ニ違ヒタル時
- 第二十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時
- 第二十六條ニ違ヒタル時
- 第三十七條ニ違ヒタル時
- 第三十八條ニ違ヒタル時
- 第三十九條ニ違ヒタル時
- 第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス
- 第四條ノ第一項ニ違ヒタル時
- 第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保證金ヲ差入レサルトキ又前項ニ同シ

第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償ス可シ

○公證人規則施行條例十九年八月三十日(拾遺) 司法省令甲第二十號

今般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通之ヲ定ム

公證人規則施行條例

第一條 公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス

但土地ノ情況ニ因リ五名以下ヲ増置スルコトアルヘシ(二十五年一月司法省令第二號ヲ以テ但書ヲ追加ス)

若シ公證人ノ員數不足スルトキハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルコトアル可シ

第二條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ始審裁判所ニ差出シ控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ

始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサル片ハ直チニ其住居ス可キ町村ヲ指定ス

第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受ケタル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスル片モ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲ク可シ  
役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲スヲ要ス

書類ハ常ニ書籍ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第五條 公證人規則ニ從ヒ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗願書ニ履歷書ヲ添ヘ試驗期日ノ告示アリタルヨリ試驗期日一個月前マテニ試驗ヲ行フ控訴院若クハ始審裁判所ニ差出ス可シ

試驗願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戶長ノ與書ヲ受ク可シ

第六條 試驗ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス

第七條 試驗委員ハ筆記試驗ノ答按ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試驗ヲ行フ可シ

筆記試驗ニ合格セサル者ニ付テハ口述試驗ヲ行ハス

民法附錄

第八條 試験問題答按ノ適否ハ試験委員ノ判断ニ決スルモノトス

試験ノ結果ハ筆記口述ニ種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條 試験委員ハ口述試験ノ大略及試験全體ノ結果ヲ記録ニ記載ス可シ

第十條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ

試験ヲ行フタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試験及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名年齢及ヒ及第ノ年月日ヲ登録ス可シ

第十一條 試験委員ハ試験ニ關スル一切ノ書類ヲ其試験ヲ行フタル始審裁判所若クハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ

始審裁判所ニ於テ試験ヲ行フタルキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

控訴院ニ於テ試験ヲ行フタルキハ前項ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十二條 公證人タラント欲スル者ハ其願書ニ試験及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證スル證書ヲ添へ之ヲ差出ス可シ

試験及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フ可シ

第十三條 公證人願ヲ受タル始審裁判所ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ

之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公證人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出タルキハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公證人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條 司法大臣公證人ヲ任スルキハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ記録ス可シ

第十七條 公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公證書若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ム可シ

第十八條 公證人ノ納ム可キ身元保證金ノ額ハ左ノ如シ  
東京及大坂 金五百圓

他ノ地方ニ於テハ  
人口貳拾萬以上アル受持區 金四百圓

人口貳拾萬未滿拾萬以上アル受持區 金三百圓

人口拾萬未滿アル受持區 金貳百圓

前項ノ金額ハ人口ニ増減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ増減セス

第十九條 公證人ハ身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ス  
公證人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサルハ公證人規  
則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス  
第二十條 公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツ  
ルモノトス

第二十一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタルハ管轄  
始審裁判所長ハ速ニ保證金ヲ補充ス可キ旨ヲ公證人ニ命ス可シ  
公證人保證金ヲ補充スルマテ始審裁判所長ハ假ニ職務施行ノ停止ヲ命スルコトヲ得此場合  
ニ於テ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルハ始審裁判所長ハ控訴院  
ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

第二十二條 公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保證金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシ  
メ若シ餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條 公證人其職務ヲ罷タルハ身元保證金ヲ還付ス可シ

第二十四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルハ管轄始審裁判所ハ控訴院ヲ  
經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ  
停職者復任シタルハモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ始審裁判所及控訴院ハ  
其旨ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條 公證人規則ニ定メアル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及治罪法ノ例ヲ  
用ヒス

第二十七條 公證人試驗願書式履歷書式及公證人願書式ハ左ノ如シ

第一 公證人試驗願書式

公證人試驗願 料紙美濃紙

族籍 戸主嗣子又ハニ  
三男兄弟ノ別

氏 名

年 齡

現住所

氏 名 印

年 月 日

某控訴院長誰殿 又ハ某始審裁判所長誰殿

前書ノ通族籍年齢等相違無之候也

年 月 日

本籍

民法附録

區長又ハ戶長 印

五百四十九

第二 履歷書式

履歷書 料紙美濃紙

五百五十

族籍

氏名

年 齡

- 一 何年何月ヨリ何年何月迄府縣何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業
- 一 何年何月何々職業仕官進退賞罰等ニ關スル一切ノ件
- 一 公證人規則第二十條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候

前書之通相違無之候也

氏名印

本籍

區長又ハ戶長 印

年月日

第三 公證人願書式

公證人願 料紙美濃紙

族籍戶主嗣子又ハニ男兄弟ノ別

氏名

年 齡

私儀何府縣何國某治安裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候  
ニ付御登用被下度試験及第證書(官記學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品行保證書相添此  
段奉願候也

年月日

現住所

氏名印

司法大臣誰殿

私儀何府縣何國某治安裁判所管下及何府縣何國某治安裁判所管下(某始審裁判所管下又ハ某  
控訴院管下)ノ内何レノ公證人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行  
度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及第證書(官記學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品  
行保證書相添此段奉願候也

前後ノ式ハ前式ニ同シ

○公證人身元保證金取扱手續二十三年三月二十七日 司法省訓令民第四三二號裁判所(拾遺)

公證人身元保證金取扱手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 公證人身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差出シタル片ハ裁判所ヨリ預リ證書ヲ渡ス  
可シ

第二條

現金ヲ以テ保證金ト爲スニハ之ヲ其地ノ國庫金出納所ニ預ケ其預リ證書ヲ差出サ  
民法附錄

シメ雜部金ノ取扱ヲ爲ス可シ

五百五十二

第三條 公債證書又ハ日本銀行株券ヲ以テ保證金ト爲シタルハ始審裁判所ハ適當ノ價格ヲ定メ計算シテ其證書ヲ差出サシム可シ

第四條 身元保證金トシテ記名ノ公債證書又ハ株券ヲ差入ル、并ハ總テ其本人記名ノモノニ限ル可シ

第五條 身元保證金トシテ差出シタル現金預リ證書公債證書又ハ株券ハ裁判所長書記ト共ニ之ニ封印シテ其裁判所ニ領置ス可シ但必要ノ場合ニ於テハ裁判所ハ之ヲ他官廳又ハ銀行ニ預ケ置クコトヲ得

第六條 公債證書ヲ以テ保證金ト爲シタル者其利子請取ノ期ニ至リ其利札ヲ請求スルハ裁判所長書記ト共ニ開封ヲ爲シ利札ヲ下渡シ更ニ前條ニ從ヒ封印ヲ爲シ置ク可シ

第七條 公證人過料ノ處分ヲ受ケ納完セサルハ裁判所ハ身元保證金ヲ以テ之ニ充ツル旨ヲ本人ニ通知ス可シ其通知ノ翌日ヨリ三日内ニ尙ホ納完セサルハ保證金ヲ以テ過料ニ充ツ可シ損害賠償ノ場合ニ於テモ亦之ニ準ス

第八條 身元保證金トシテ差入タル公債證書ヲ以テ過料又ハ賠償ニ充ツヘキハ之ヲ公賣ニ附シ又ハ適當ノ時價ヲ以テ之ヲ賣却シ其代價ヲ以テ過料賠償ニ充ツ可シ

第九條 過料又ハ賠償ニ充ツル爲メ公賣ニ附シ又ハ賣却シタル記名公債證書ヲ買受タル者ノ名面書換ハ明治十四年第四十一號布告ノ手續ニ依ル可キモノトス

### 右訓令ス

## ○登記法及公證人規則ニ對スル抗告手續

今般法律第一號第二號ヲ以テ登記法及ヒ公證人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之ヲ定ム

### 抗告手續

第一條 登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人ニ差出ス可シ

第二條 登記官吏又ハ公證人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日以内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫ヲ添へ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致ス可シ

第三條 登記官吏又ハ公證人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致セサルトキ又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直チニ管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得

始審裁判所ハ抗告ヲ受ケタル登記官吏又ハ公證人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ求ムルコトヲ得

第四條 登記官吏又ハ公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ其處分ヲ停止ス可シ

第五條 抗告狀ヲ受取タル管轄始審裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ

民法附錄

始審裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辯セシムルコトヲ得

五百五十四

第六條 始審裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄治安裁判所ニ送致シ之ヲ登記官吏又ハ公證人及ヒ抗告者ニ送附セシム可シ

始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第七條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出ス可シ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルトキハ速ニ其不服ノ點ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルトキハ第二條ノ期日内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添へ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ

第八條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第三條ノ手續ニ依ルコトヲ得

第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲ス可シ

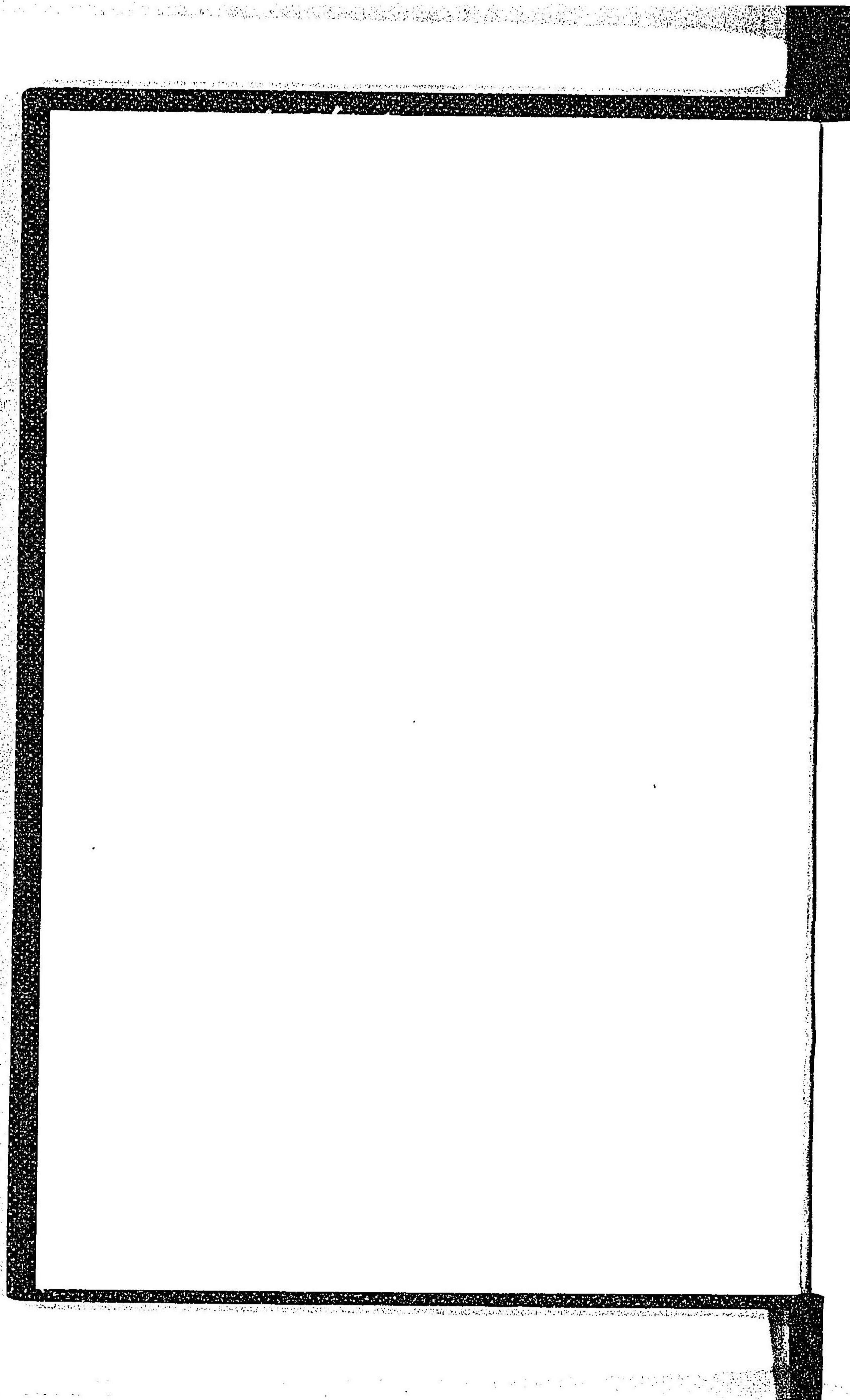
第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ  
控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル始審裁判所ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

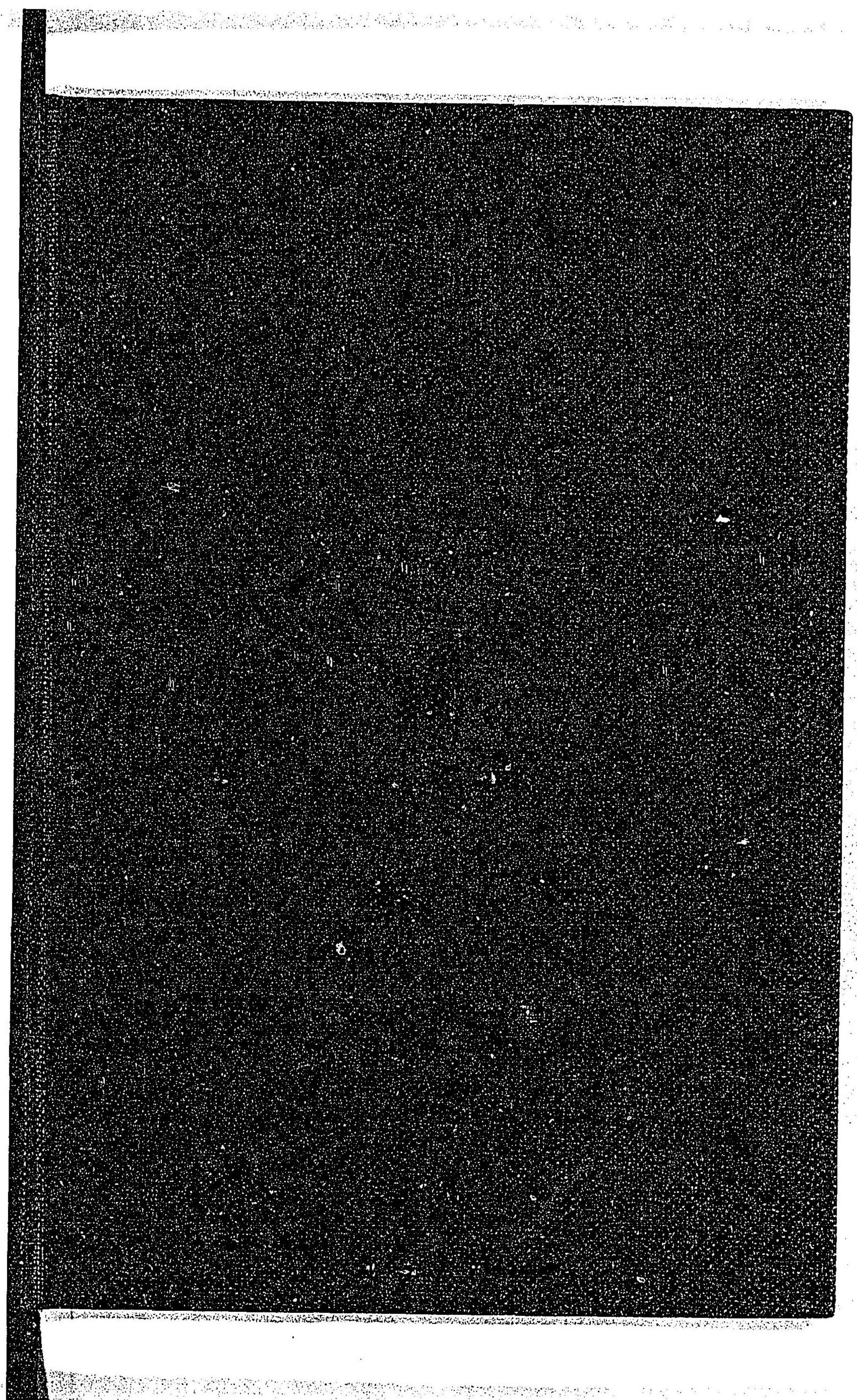
第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

10-221

45







32  
9.5

禁電子式複写

